

平成 26 年 9 月 23 日

国連気候サミット 安倍総理スピーチ

議長、

御列席の皆様、

7 年前、私は「美しい星：クールアース」の概念を提唱し、2050 年の温室効果ガス半減を世界の目標とするよう提案しました。そして昨年には、新たな戦略「アクションズ・フォー・クールアース」を作りました。私は、気候変動に対する行動を提案し、実践してきました。

皆さん、地球温暖化は、疑いのない事実です。行動を起こしましょう。私も、今日は美しい星のために、日本の新たな行動を紹介します。鍵は、途上国支援、技術革新と普及、国際枠組みへの貢献の 3 つです。

まず、途上国支援です。日本は昨年初めから 3 年間で約 160 億ドルの支援を約束しましたが、これをたった一年半あまりで達成しました。日本は約束を守ります。そして今回新たに、3 年間で、気候変動分野で 1 万 4 千人の人材育成を約束します。さらに、「適応イニシアチブ」を立ち上げ、途上国の対処能力を包括的に支援します。

7 月、私は日本の総理として初めてカリブ地域を訪問し、小島嶼国特有の脆弱性に配慮する必要性を肌で感じました。支援では、特に島国を重視します。カリブ訪問時に立ち上げた広域支援プロジェクトが一例です。さらに、気候変動にも深く関係する防災では来年 3 月、仙台で第 3 回国連防災世界会議を開催します。是非ご参加いただきたいと思えます。

次は技術の革新と普及です。イノベーションは 2050 年世界半減への鍵です。日本は、そのエネルギー効率を世界最高水準に導いた技術革新を今後も推進するとともに、世界の産官学の英知を結集する国際フォーラムとして「ICEF」の第一回来月、東京で開催します。また、省エネルギーの国際的なハブを東京に設置するとともに、署名国が 12 か国に至った二国間クレジット制度を着実に実施し、優れた技術を国際社会に広め、世界の削減に貢献します。さらに、温室効果ガスの排出量を監視・検証する衛星を打ち上げ、データを世界規模で相互活用します。

最後は、将来の国際枠組みです。2015 年は、人類が美しい星へと向かう岐路です。全ての国が参加する枠組みが必要です。日本は、COP19 の決定も踏まえ、約束草案を出来るだけ早期に提出することを目指します。また、緑の気候基金については、その受け入れ体制など必要な環境が整った際に、日本としても応分の貢献をするべく、検討を進めています。

以上が日本の新たな「行動」です。日本は3年前の震災と原発事故を乗り越え、低炭素社会のモデルとして、美しい星のために行動を続けていきます。

御清聴ありがとうございました。